

# アスピリンによる大腸癌予防と 大腸内視鏡検査

デンマーク Danish Cancer Society  
Research Centre の Friis らは、低用量アスピ  
リン・非ステロイド性抗炎症薬の大腸癌リスク  
との関連を評価し、Annals of Internal  
Medicine に発表しました (n=10,280 cases;  
102,800 controls)。



低用量アスピリンの5年以上の服用は大腸癌リスクを大きく低下させました（OR:0.73）。非アスピリンNSAID、特にCOX-2選択性が高い薬剤の長期・高用量使用は、大腸癌リスクの大きな減少と関連しました（OR:0.57）。



今後、低用量アスピリン・非ステロイド性抗炎症薬服用と大腸内視鏡検査を組み合わせることにより、大腸癌リスクのさらなる低下が可能になると予想されます。